

少年非行の現状

みんなの問題 みんなで考えよう

非行年令の低下と集団化の傾向

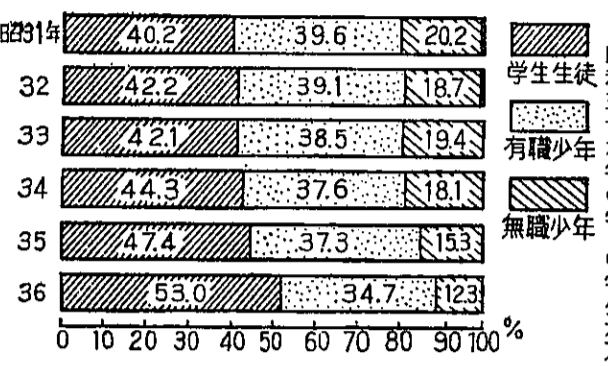
少年犯罪の最近の傾向は非行年令の低下、暴力犯、性犯の増加、非行の集団化となつていきました。そして、これまでは環境が悪かったとか、生活が苦しいとかが主な原因とされてきましたが、近頃は遊ぶためとか、ぜいたくをするとか自分の欲望を満足させるために、つづかい銭に困っての犯罪や、何の動機もなく、ただ瞬間的にカッとなつてする暴力犯などが多く、これを家庭環境からみても、中流以上の生活をしてい

学生生徒による犯罪の増加

著しい犯罪増加率

昭和三十一年を一〇〇とした指数を基準にすれば、昭和三十六年の刑法犯少年は、総数では一七〇となつていて、この期間に学生生徒のみは二二四に増加しています。同じ期間に有職少年は、一四九となつており、約一・五倍の増加であるのに対し、学生生徒は約二・二倍という驚くべき犯罪増加率を示しています。

【第4図】 刑法犯少年の階層別割合



学校種類別の犯罪状況

学生生徒の犯罪者数を学校別にみると、昭和三十六年の学生生徒刑法犯総数十一万四千七百四十人中、小学生二万四千八百四十五人(二一・七%)、中学生六万七千六百七十七人(五八・五%)、高校生一万九千三百三十三人(一六・八%)、大学生その他三千四百九十五人(三・〇%)となつて

います。学生生徒による犯罪の九六・九七%までは小、中、高校生で占められていて、ことに中学生による犯罪が圧倒的に多く、これだけで総数の半数以上を占めています。

少年法犯 全国で二十万人こえる

昭和三十六年中に全国の警察に捕縛された刑法犯少年数は、戦前(十四才未満)の少年であつて、刑法犯令に抵触する行為をした少年)を含めて二十一万六千四百五十六人にのぼり、ついに二十万台を突破しました。前年に対しては、一・〇一%の増加であり、この年令層の少年人口は、二十五万五千三百人であるから、人口一〇〇〇人あたり、一・〇五人の犯罪率となつています。

戦前の四倍に増加

刑法犯少年の人員数は、戦前四十五万人台、戦時中五十六万人台であったものが、終戦の翌年昭和二十一年には、一億一千万人台に達し、昭和二十六年には十六万六千四百三十三人と戦後の第一ピークを示しました。

中学生による犯罪増加

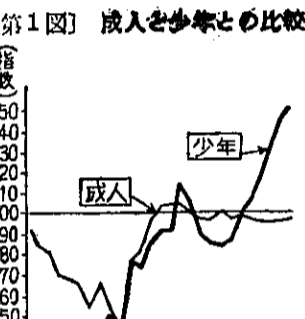
昭和三十五年までは、中学生の犯罪は学生生徒による犯罪の五二・五%を占めていたが、昭和三十六年には、前年に対して三六・四%も激増したため、総数の五八・五%を占めています。

人口の大都市集中化

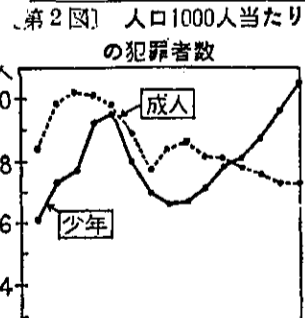
人口の大都市集中化に伴い、犯罪も都市に多発しています。昭和三十一年の刑法犯少年総数を一〇〇とした昭和三十六年の指数は一七〇ですが、大都市のみでは二〇〇となつてい

非行も都市から農村へ

次第に農村に非行少年が増えています。これは近頃の農村では、若い階層が農業をきり捨て、都市に流出する傾向が、行方不明少年は六十八人、虞犯少年は七十五人、あわ

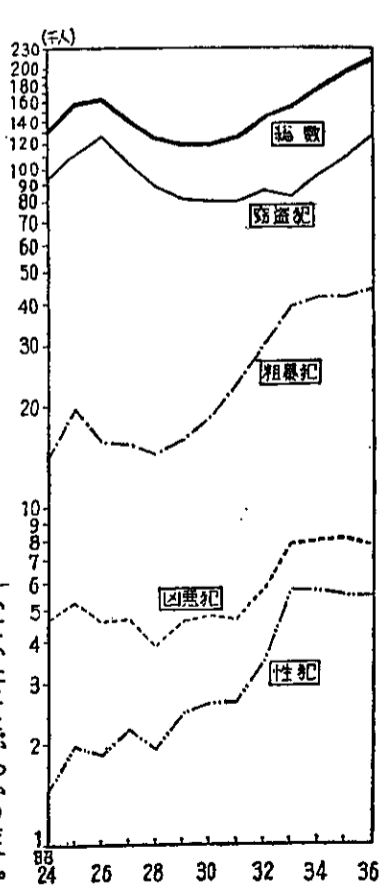


【第1図】 成人と少年との比較



【第2図】 人口1000人当りの犯罪者数

【第3図】 刑法犯少年の罪種別階層



【第4図】 刑法犯少年の罪種別階層

少年の生活程度をみますと、貧四・三%、下流五三・七%、中流四一・〇%、上流〇・九%となつています。下流層と中流層とで、ほとんど占めていますが、最近における中流層の少年による犯罪の増加は著しいものがあります。

刑法犯少年の質的変化

刑法犯少年の内容を分析しますと、もはや少年犯罪は環境に恵まれない、あるいは素質に問題のある特殊の少年層のみ発生するものとはいえなくなつたのです。最近の少年犯罪が、質的にみても、単一犯罪型から成人犯罪型へ

単一犯罪型から成人犯罪型へ

刑法犯少年の戦後の推移をみますと、第一のピークに達した昭和二十六年にいたる激増の減少期にあって、その増減は主として窃盗の増減に基づ

一犯罪の集団化

昭和三十六年に検挙された刑法犯少年事件は二十八万七千六百八十七件でしたが、この内訳は、単犯七三・七%、共犯二六・三%となつています。中学生の番長グループの非行など、再三報道されているところですが、これらの非行グループは、たいていの場合、非行前歴のある少年を中心として結成され、組織的名称を定め、会則を作り、組織内の分担役割をきめて、集団意識がきつて固いところにある特徴があります。ある非行グループの一例を紹介しましょう。このグループは、非行前歴のある十九才の少年を首領として、百一人で結成された

の増加には、異常といえるほどのものがあるが、昭和三十一年から三十六年にかけて、小学生は三・六%、中学生は一六・〇%の犯罪増加率であったが中学生による犯罪増加率がわかってきたこと、昭和三十六年は、人口一〇〇〇人あたり九・七人となつてい

ます。この中学生の非行増加にあるのであって戦後に生じた戦後の家庭教育の欠陥を物語っているといえるのではないのでしょうか。

潮と関係があると思われる。つまり、レジャーを楽しまつため、よりぜいたくな物を求める物欲が多くなつてきているのであって、中流家庭における子ども達の犯罪、中学生の犯罪の増加との関連を考

が激増している事実を数字をもって知ることができたわけですが、近頃のように、一般の家庭の子弟それぞれが、中学、高校に在学中の子どもの非行を犯すような状態に直面したことは、いままでになかった現象です。おとなのひとりひとりがよくこの現状を認識して、その原因を検討するとともに、彼らの日ごろの生活を真の愛情をもって、積極的に指導して行く心構えをもつことが

学生生徒による犯罪の増加

昭和三十六年の少年刑法犯は、二十一万六千四百五十六人中、学生生徒五三%、有職少年三五%、無職少年一二%の構成比になつてい

中流層の少年による犯罪の増加

昭和三十六年における刑法犯少年が、年少の中学生などをグループにひきこむことがしばしばあり、また集団による非行は、単独で行なう場合にくらべて、各人の罪意識を軽くし、あるいは群集心理にかられることなどから重い犯罪を簡単に犯す傾向が